

2. 大淀川の現状と課題

2.1 治水の現状と課題

2.1.1 洪水対策

(1) 外水対策

大淀川は、昭和2年以降に直轄河川として河川改修を進めた結果、平成15年度末における堤防の整備率は完成区間が約88%まで進んでおり、大臣管理区間の堤防整備が必要な区間133.4kmに対して暫定堤防※を含めると95%が概成しています。また、暫定堤防の多くは下流地区にあります。

大淀川上流部の庄内川合流点上流地区、高崎川合流点付近においては、河道断面が不足していること等から、近年溢水する事態が頻発しています。また、支川小松川、大谷川、深年川、山内川、麓川、山田川、花の木川、横市川においては、河道断面が不足していること等から、浸水被害が発生しています。

表 2.1.1 大臣管理区間堤防整備状況

大臣管理 区間延長 (km)	要堤防 整備延長 (km)	完成堤防		備 考
		整備延長 (km)	整備率 (%)	
86.1	133.4	116.9	88	

※暫定堤防とは完成堤防に比べて高さや幅が不足しているもので、計画高水位以上の高さを有する堤防をいいます。

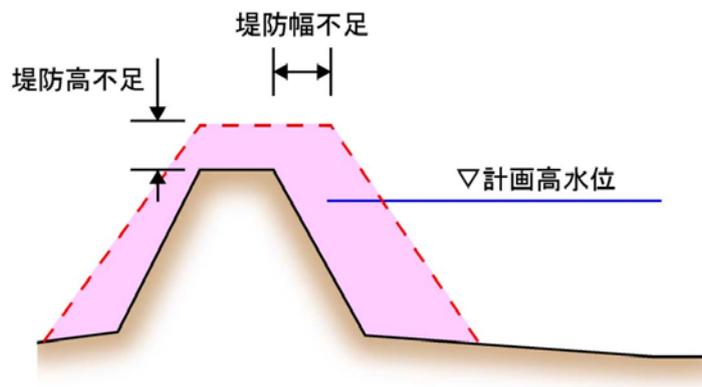


図 2.1.1 暫定堤防のイメージ

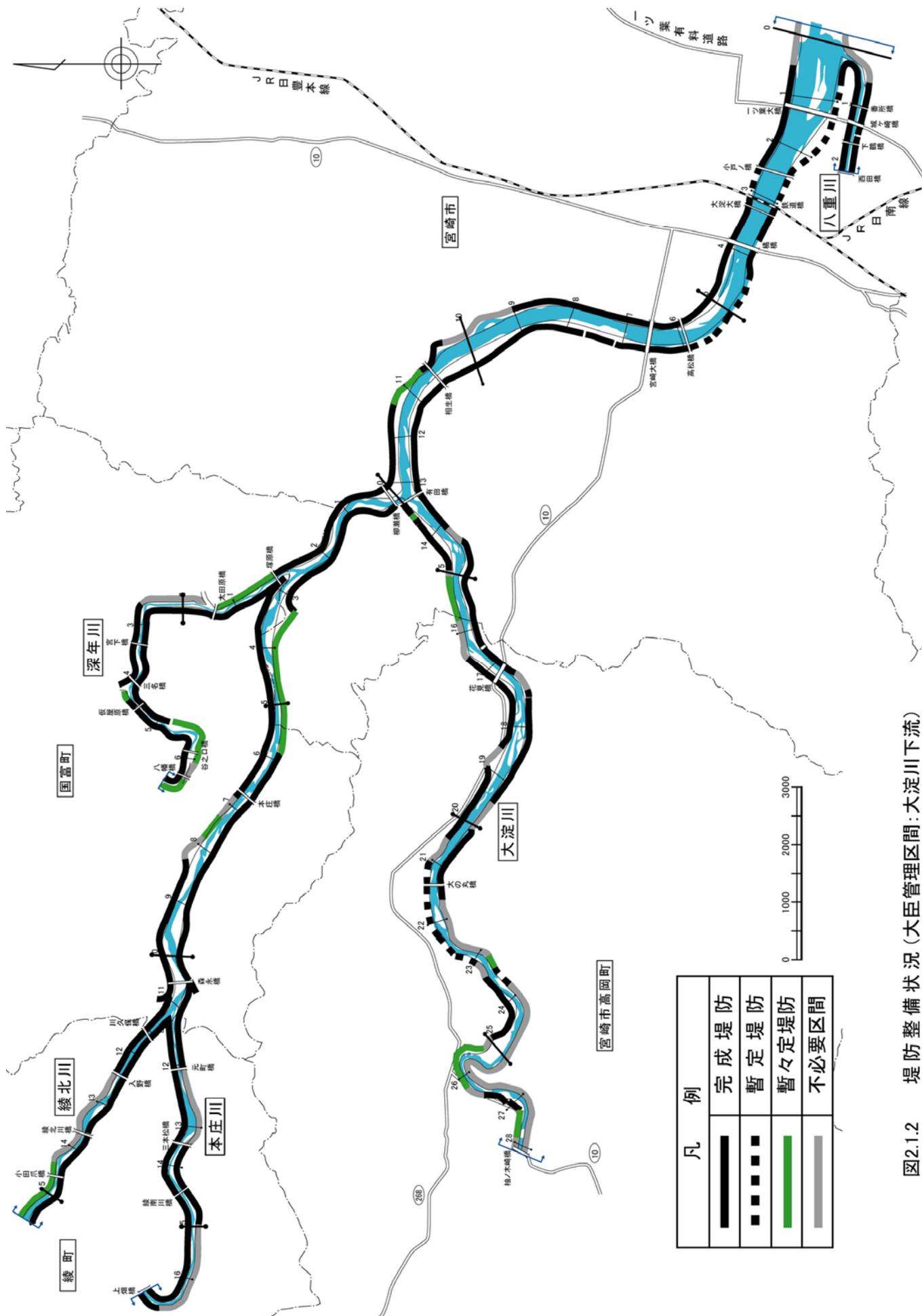


図2.1.2 堤防整備状況(大臣管理区間:大淀川下流)

(2) 内水対策

大淀川においては、堤防の整備が進み、外水氾濫の危険度はかなり下がってきていますが、堤内側の地盤高が洪水時の河川水位に比べて低い地形特性を有しており、近年においても昭和57年8月洪水、平成2年9月洪水、平成5年8月洪水、平成9年9月洪水、平成16年8月洪水、平成17年9月洪水など内水被害が頻発しています。特に平成17年9月洪水では床上浸水約3,830戸、床下浸水約870戸にのぼる大規模な被害が発生しました。

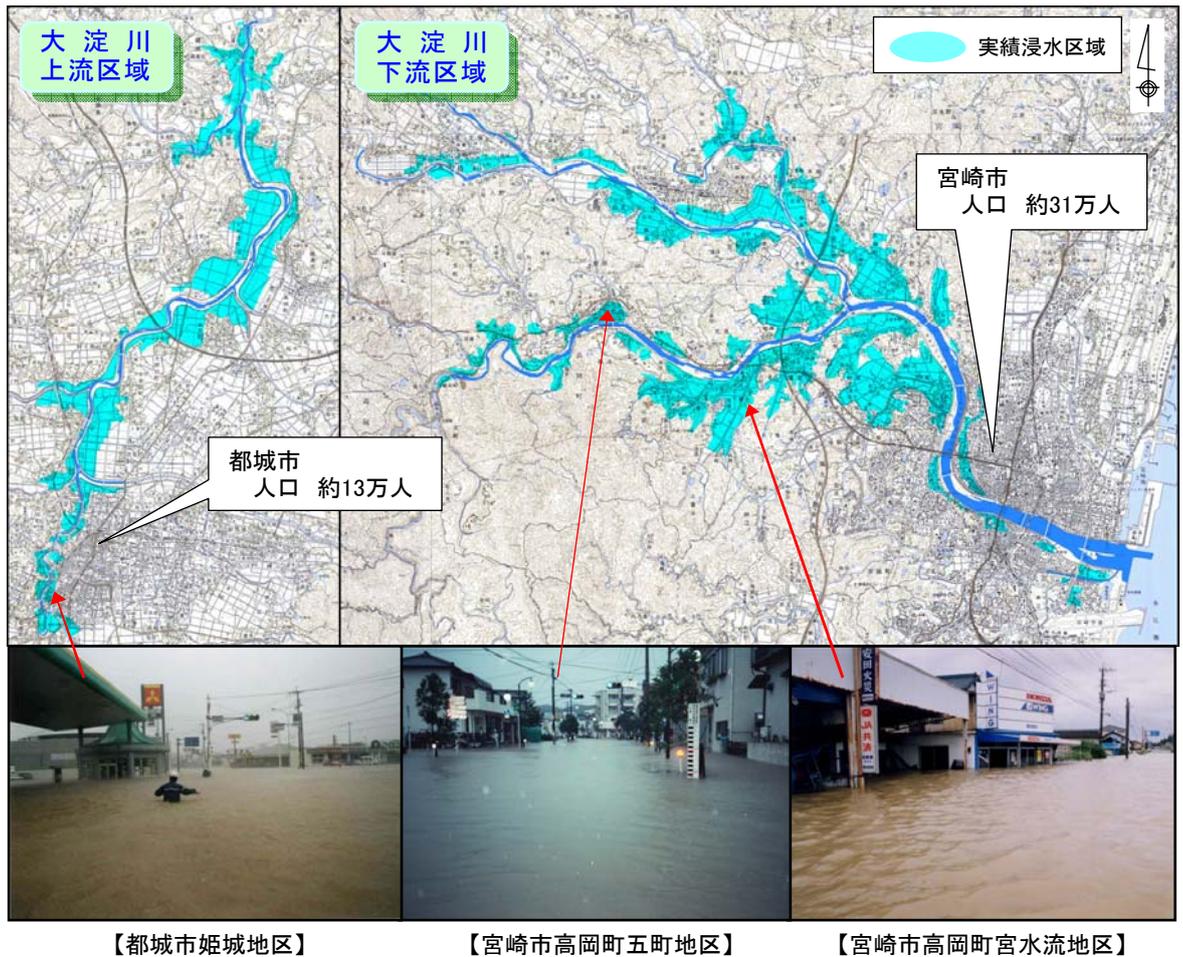


図 2.1.4 平成2年、5年、9年、17年洪水による最大浸水区域図

表 2.1.2

既往洪水による内水被害

地区名	平成2年9月洪水			平成5年8月洪水			平成9年9月洪水			平成17年9月洪水		
	床上 (戸)	床下 (戸)	面積 (ha)									
大淀川 下流	856	687	1,478	638	708	929	142	149	514	3,697	786	2,166
大淀川 上流	92	234	636	65	64	527	175	254	930	137	86	1,156
計	948	921	2,114	703	772	1,456	317	403	1,444	3,834	872	3,322

出典) 国土交通省宮崎河川国道事務所調べ